

西部の国語の未来へバトンをつなぐ

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!



令和元年6月発行
西部教育事務所

今年度は、国語科でも授業づくり講座が始まりました。今回は、5月16日(木)に行われた、宿毛市立宿毛小学校の第1回教材研究会の様子を紹介します。



【提案内容】小学4年生「説明のまとまりをみつけよう」
(教材名:「ヤドカリとイソギンチャク」東京書籍4年上)
【授業者】 今津 浩美 教諭 (宿毛市立宿毛小学校)

平成30年度 第3学年
CRT 分析結果より

課題の所在

What? (課題)

- ①文と文の関係に注意して適切な接続語を選ぶこと。
- ②筆者の主張がどの段落に書かれているかを読みとること。

Why? (要因)

- ①文章を読んで、文と文の関係を捉えることができていない。
- ②文章の中から筆者の主張とそれを支える理由や事例がどこにどう書かれているかを読みとることができていない。

How? (改善策)

「見方・考え方」の設定

→接続語や「問い」や「答え」、「実験」や「観察」が書かれている叙述に着目し、段落相互の関係を捉えることで、その言葉がもつ良さに気付かせ、文章の構造や内容を把握させる。

課題改善に向けた単元ゴールの設定

→課題と捉えた力の育成に向けた単元ゴールを設定する。

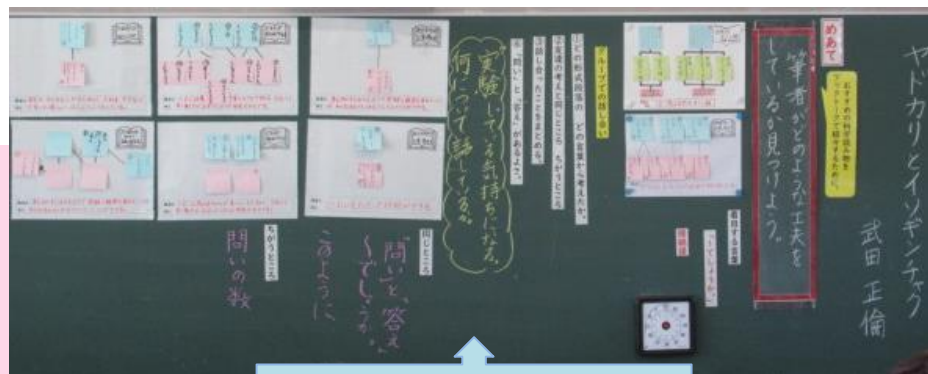
【知識・技能(1)力】接続する語句の役割について理解し、読んだり書いたりするために用いることができる。

【思考・判断・表現C(1)ア】段落相互の关系到着目しながら読み、考えとそれを支える理由などがどこにどのように書かれているかを捉えることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】科学的なことについて解説した本や資料に関心を持ち、調べたい課題を見つけたり、情報を集めて考えをまとめたりしようとしている。

参観及び協議の視点

→児童が見方・考え方を働かせることができる授業デザインであったか。



模擬授業における最終板書

模擬授業

本時の目標

「問い」や「答え」に着目して、文章のまとまりを捉え、筆者の説明の工夫を理解することができる。

めあて

おすすめの科学読み物をブックトークで紹介するために、筆者がどのような工夫をしているか見つけよう。

◆筆者の説明の工夫を見つけるために着目した言葉を確認する。

「問い」と「答え」によるまとまりで論を進めている。

児童役の反応

問い「～でしょうか。」
接続語「では」など

◆家庭学習で考えてきたおすすめの科学読み物の「問い」と「答え」を手がかりに、筆者がどのような構成で書いているかを同じ本を選んだ友達と確認する。

話し合いのポイント

- ①根拠を基に伝え合う。
- ②自分の意見と比較しながら聞く。
- ③構成図を作成する。
- ④「問い」と「答え」がある良さを考える。



◆違う本を選んだ友達とブックトークを行う。

児童役の反応

一つ目の「問い」は○段落の「～でしょうか」で、その「答え」は、△段落の「～です。」のところ。二つ目の「問い」は…



協議・共有

- 前時の既習内容を使い、接続語や「～でしょうか」を手がかりに活動できた。
- 並行読書を活用することで、教科書教材で学習した力を使って進めていくことができた。
- あらかじめ、「問い」と「答え」がある良さについて考えるように指示せず、そこを子供自身に考えさせると良い。
- 「問い」と「答え」を見つける学習になってしまった。意味段落を捉えることで、筆者の説明の工夫が理解できる。



講師による指導



—講師—
前鎌倉女子大学准教授
松永 立志 先生

国語科のもつ特性について

- ◆国語（言語）は、全ての学力の基盤である。（人間として生きる基盤）
（創造性・論理的思考、感性・情緒、判断力、他者とのコミュニケーション）
- ◆指導事項の抽象性が高い→指導内容が不明確→評価が曖昧
（学力のとらえが曖昧。授業観が曖昧。言葉の力のメタ認知が曖昧。）
- ◆言葉による見方・考え方を働かせて、資質・能力を育成する。
（対象と言葉、言葉と言葉の関係性を問い直して意味づける。）
- ◆言語活動（相手・目的）の充実（「言語活動」を通して「指導事項」を指導する。）

★言語活動の充実＝「ブックトークで何を紹介するか」を明確にする。

今回のねらいとなる「段落の結びつきを考え、文章の内容のまとめ（意味段落）を捉える。」ことは、教師に課せられたミッションである。子供は、その力を付けるために言語活動として設定した「ブックトーク」を行う。子供が伝えたい内容は、説明文のおもしろいところ（驚いたところや不思議だと思ったこと）である。
つまり、ブックトークで驚いたことなどを伝えるために、文章をまとめ（意味段落）ごとに分けてみる。分けてみるとそれが見えやすくなる。

★文章のまとめ（意味段落）を捉えるには、何が必要か？

「『問い』や『答え』を表す文末表現」や「つなぎ言葉（接続語）」に着目させることで文章がどこで切れているかが分かる。それが一目で分かるものが、文章構成図である。文章構成図を作ることで、文章のまとめを捉えることができるようになる。また、読解の技能として大切なのは、子供自身が自分の考え（理由や根拠）を説明できる力である。

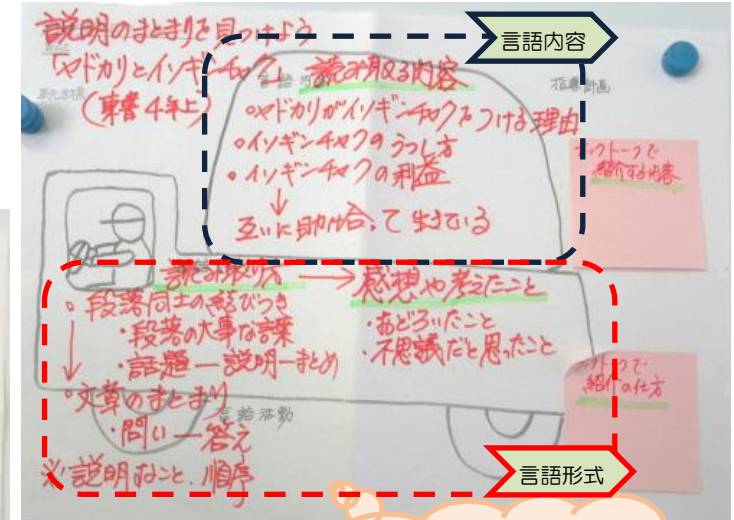
★言語内容と言語形式を明確にした教材研究

言語内容：ヤドカリがイソギンチャクを付ける理由等

言語形式：段落同士の結びつき（段落の大事な言葉・話題の提示ー説明ーまとめ）

国語で教えるのは、言語形式である。子供の言語活動の履歴や言語能力の系統性を踏まえて言語内容と言語形式を明確にしたうえで、指導することが大切である。

＜トラック図で教材分析＞



＜文章構成図＞



中学年のうちに自力で書けるようにすることが大切です。

トラック図で言語内容と言語形式を捉えることで、どのように教えるかを整理することができます。

参加者の声

★教材を学習するのではなく、教材で学習するということを学ばせてもらいました。子供達に力をつけるために、並行読書の重要性、選択の大切さが分かったので、本校に持ち帰って伝達講習させてもらいます。

★国語（言語）は全ての学力の基盤であるという言葉のように、言葉のもつ意味について考え、どのように子供達に身に付けさせ、活用できるようにさせるかを深く思った。普段使用している言葉の重み、様々なことがその子供の生きる（生きている）基になるので、国語の時間だけでなく大切にしていきたい。

今後の予定

- ◆ 6月28日（金）授業研究会 4年生「ヤドカリとイソギンチャク」
- ◆ 9月26日（木）教材研究会
- ◆ 11月 7日（木）授業研究会

「資質・能力をつける国語科の授業って？」
学校、校種を超えてぜひ、一緒に学びましょう。
ぜひ、お越しください！！